

夏井の千本桜



農業体験学習



田舎暮らし体験ツアー



いや異文化にふれることで、住民意識の向上や高齢者の生きがいの創出など、その期待される効果は多岐にわたっています。

交流人口拡大のために

交流人口を拡大するためには、関係者が連携して、それぞれの工夫や知恵を活かした取組みを進めることが大切です。

また、交流の動機付けとなる地域の魅力を、常に発信し続けることも大切なのです。

そのためには、地域を見つめ直し、資源を見つけて磨きをかけ、地域の宝として育てていくことが重要なのです。

事例として

「交流」には様々な形態があり、観光やキャンプ、スポーツ大会、夏祭りなどのイベントから、学校や職場なども交流（ふれあい）の場と言えます。

現在、検討中のものを含め、事業として行っているのは、東京都荒川区との交流、東京都中野区中野第一中学校の農業体験、中学生の翼、小野町ふるさと暮らし支援センターの田舎暮らし体験ツアーなどがあります。

それぞれ、推進体制や受け入れ態勢の整備に力を注ぎながら、工夫を凝らした事業が展開されています。

国之光観(国の光を観る)

観光という言葉の意味は、古代中国の易経の中に「観国之光、利用賓于王(国の光を観るは、もつて王に賓たるによろし)」を語源とし、国「地域、光」地域の文化など、観「示す」という意味を持っています。

小野町にとつて「光」とは何があるのでしょうか。普段は何気なく見過ごしているモノの中にも「光」を放つ素材が眠っているかもしれません。

眠っている素材を「光」に変えるのは、外からの視点(評価)と、内からの創意工夫ではないでしょうか。

荒川区との交流

町では、ふるさと小野町会と戦時中小野町に疎開していた方々を通して荒川区との交流が図れないか検討しています。8月24日、町長はじめ6名の職員が荒川区役所を訪問し、区役所からは、西川区長はじめ関係職員の方々に対応いただき、交流事業について協議した中で区のイベント参加や商店街への「アンテナショップ」事業との提案をいただき、具体的な交流に向けて一歩前進することができました。

2ページの絵は、協議の折りに、町の特産品ミネラル野菜のトマト、ちや豆「美女伝説」を持参したところ「生涯健康都市宣言」をしている荒川区の方針と町のミネラル野菜が合致すること、早速保育園の食材に使っていただきました。第二東日暮里保育園の園児の皆さんが、食べた感想を込めてミネラル野菜を絵に描いて、御礼に送ってくれたものです。園児の皆さん、これからも美味しい野菜をたくさん食べて、大きく成長してください。